



独立行政法人国立病院機構
東埼玉病院だより

発行日 令和2年7月
発行人 正田 良介
〒349-0196
埼玉県蓮田市黒浜 4147
電話 048-768-1161
<http://esaitama-nho.jp/>



令和2年度4月採用 新人看護師 (関連記事 P.7)



目次

- 院長のご挨拶 2
- 春の癒し ～東埼玉病院・中庭～ 3
- 東埼玉病院 在宅医療 4～5
- 新任职員のご挨拶 6～7
- 新人看護師オリエンテーション 7
- 地域医療連携室からのお知らせ 8

院長のご挨拶

日頃から、当院の診療にご理解とご協力を頂きありがとうございます。

東埼玉病院は、必要ではあるものの他の設置主体では必ずしも行われたい可能性がある医療（セーフティネット系の医療）として、神経筋難病、結核、HIV感染症の患者さんや重症心身障害児・者の皆さんへの医療・療養の提供を行うとともに、連携して地域の医療を支えるリウマチ膠原病や呼吸器疾患の診療、および回復期リハビリテーションや在宅医療を行ってきました。これらは本当に重要な今後も継続すべき仕事と考えています。

本年3月からは公的病院として、新型コロナウイルス感染症への対応も行ってきました。4月の流行拡大期にも、可能な限り本来の機能を維持しながら診療を続けてきました。5月21日に新型コロナウイルス感染症対応とは全く関係がない部署で1名の院内感染が発生してしまいましたが、職員一丸となって対応し拡大を抑止することができ、6月4日には終息を確認しています。この間、ご心配とご不便をおかけしましたが、ご協力ありがとうございました。

外来、入院ともに新型コロナウイルス感染症の患者さんを現在も受け入れています。院内の感染症専門医や感染対策チームのコントロールのもと、それ以外の患者さんとの接触はないように診療開始当初から動線を分離して診療にあたっています。今回の院内感染が比較的速やかに抑止できたのも、この体制がきちんと機能したことと、結核病院として培ってきた日頃の感染対策（標準予防策など）が遵守されていたことが大きかったと考えています。

新型コロナウイルス感染症とは、しばらくの間共存して生活を送る必要があります。東埼玉病院は必要時には迅速にPCR検査も可能であり、安全に本来の診療機能も確保できる体制となっています。従来通り必要な患者さんにはきちんと受診して頂き、診療をすることが可能と考えています。面会禁止や制限などではご迷惑をおかけすることもあります。ご理解とご協力をお願いします。

2020年7月9日

院長：正田 良介



春の癒し

～東埼玉病院・中庭～

昨年の秋より、園芸ボランティア5名と一緒に、中庭のガーデニングに取り組んでいます。11月に植えたチューリップの球根は春の訪れとともに花を咲かせ、パンジー・ビオラ・花牡丹など、昨年は見られなかった豊かな色彩が中庭に登場しています。

新型コロナウイルスの影響で今年は例年になく不安定な状況ではありますが、中庭横の廊下を通る患者さんに、お花を眺めながらほんの少しの時間かもしれませんが植物の癒しを感じていただけたら嬉しいです。

園芸ボランティアの皆さんも当院をとっても大切に思ってくださいっており、その優しいあたたかいお気持ちが中庭に表現されているように思います。「春の中庭で利用者さんとお花見をしながら、演奏ボランティアを招いて演奏会を開催したい！！」という園芸ボランティアの皆さんと一緒に立てた目標をむねに、素敵な癒し空間にしていきたいです。

当院にお立ち寄りの際にはぜひご覧になって下さい。

(療育指導室 保育士：村上 朋子)



東埼玉病院 在宅医療

～地域に根ざして～

訪問診療について

当院では、内科・総合診療科が2006年より訪問診療を行っております。対象の疾患は、がん・神経難病・内部障害（慢性呼吸不全・心不全など）・脳血管障害・認知症・老衰・整形外科疾患など多岐に渡っており、現在110名程度の患者さんを訪問診療で拝見しております。

自宅での緩和ケアや看取りも積極的に行っており、自宅での看取り数は年間30名前後となっています。当院の特徴として、在宅患者さんの入院が必要となった際に、訪問診療を行っている医師が、そのまま入院中も担当医として対応する点が挙げられます。

病状の変化や介護力の問題などで、入院が必要となる在宅患者さんもうらっしゃいますが、そのような時に、在宅でも病院でも継続的に医療を提供できることは、患者さんや介護しているご家族にとって安心につながると考えております。



また、もう1つの特徴として、グループ診療で訪問診療を行っている点が挙げられます。グループ診療に関してはメリット・デメリットがありますが、密室になりがちな訪問診療において質を確保するうえでは有用と考えております。

現在、新型コロナウイルス感染症の流行により、在宅医療の現場も変化を強いられております。私たちと患者さん・ご家族が協力して、お互いに感染しないような取り組みが重要であると思います。私たち自身、日々の体温や体調のチェックを行うと伴に、患者さんやご家族にも感染予防のためをお願いしたいこと、お伝えしたいことをパンフレットにしてお渡しております。

在宅医療においても難しい舵取りを迫られる日々ですが、今後とも、在宅医療を通して地域に貢献していきたいと考えております。よろしく願いいたします。

(内科医長：今永 光彦)

訪問看護について

東埼玉病院訪問看護ステーション雅楽谷の森が開設して2年が過ぎました。

病院併設のステーションの強みである入院患者さんと顔なじみの利用者さんからはじまった雅楽谷の森。今では様々な疾患を抱える方とご家族を支えるステーションに成長し、現在26名の利用者さんの訪問を行っています。外部の診療を利用している方も増え、たくさんのケアマネージャーさんとの情報交換

をさせていただくようになりました。

4月から訪問看護ステーションの管理者となり、病院という箱から飛び出して、一番感じたのは、患者さんと利用者さんの違いです。訪問看護は「病院の治療をどのように継続するか」を考えるものと思っていましたが、それは大きな間違いでした。



利用者さんは「おじいちゃん」であり「おとうさん」で、家族の中に役割があります。家族の中の役割を担えるように、生活に医療を寄せていくことが私たちに求められていることなのだと知りました。老々介護や認知症のご夫婦が絶妙なバランスを取りながら生活する家を守ることも訪問看護のひとつの使命であることを感じています。絶妙なバランスは、ご自宅だからこそ見せてくれる一面なのだと思います。

昨今の新型コロナウイルスの影響は、利用者さんにも大きな影響を与えました。病院に行けないという心理負担と、デイサービスやリハビリの停止による身体負担です。特に体を動かす場を失った利用者さんが直面したのは腰痛の悪化や、立ち上がりでよるめくなど大きな身体の変化となってしまいました。生活の絶妙なバランスの変化を修正するために私たちができることは何かと頭を悩ませ、そ

の人にあった自粛でもできる活動支援を提案していかなければならない状況となりました。

そこで、スタッフが考えたのが、「ラジオ体操を動画で見ながら一緒に体操する」という方法でした。誰もが知るラジオ体操の動画をタブレットで撮影し、「一緒にやりましょう」とお誘いしてみるというのです。さすが若者の発想。利用さんの反応は上々で、ご家族と一緒に「いいわね」と合いの手を入れてくれることも。限られた訪問時間の中で、やる気をくすぐることができました。

少しずつ、生活は戻りつつありますが、まだまだ予断を許せない状況です。様々な生活様式の変化を求められていくのでしょうか。当院の強みである神経・筋難病で培った きめ細やかで丁寧なケアを実践できるスタッフとともに、柔らかな発想力で地域医療を支える一人になれるように頑張っていきます。

(管理者：武井 紀子)



令和元年度（平成31年度）訪問診療回数と実患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
診療回数	201	188	176	201	197	180	211	176	191	179	167	205	2272
実患者数	103	101	101	105	107	108	110	107	105	103	100	105	1255(延べ)

令和元年度（平成31年度）訪問看護回数と実患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
訪問回数	114	106	112	107	115	101	108	114	125	134	129	151	1416
実患者数	23	24	21	21	23	23	23	23	24	27	26	23	281(延べ)



内科（総合診療）スタッフ



訪問看護ステーション「雅楽谷の森」スタッフ

新任ご挨拶



リハビリテーション科 医師：堀 亮介

こんにちは。私、リハビリテーション科新任医師の堀 亮介と申します。医師免許を無事に取得して、早3年目に突入いたしました。大学は都内でしたが、出身は北陸でして、初期臨床研修も北陸の中核病院にて修了しました。北陸と何となく似ている蓮田の自然豊かな環境は、私を少しほっとさせてくれるような雰囲気、懐かしい気持ちにさせてくれます。リハビリテーション科は、内科や外科とはまた一味違った科で、初めて学ぶことばかりです。まだまだ慣れない部分もたくさんありますが、患者さんのことを第一に考えながら日々成長できるよう精進していきたいと思っております。

内科 医師：鈴木 さゆり



4月より内科医師として赴任いたしました、鈴木さゆりと申します。後期研修の内科専門研修プログラムの中で1年間東埼玉病院で勉強させていただくこととなりました。東埼玉病院内科では訪問診療を積極的に行っています。在宅医療は初期研修医の頃より興味を持っていた分野であり、今回のようにまとまった期間研修できることを嬉しく思います。患者さんとご家族の生活や想いに寄り添いつつ、必要な医療を適切に提供できるよう、経験と自己研鑽を重ねていきたいと考えています。よろしくお願いいたします。

内科 医師：渡邊 嘉彦



7月より東京医療センターから東埼玉病院の内科に参りました。訪問診療を中心に臨床経験を積ませていただきつつ、病院に貢献したいと存じております。地域の方々と親しく、楽しく医療に邁進させていただきです。不慣れな部分もあり、みなさまにご迷惑をおかけすることもあるかと存じます何卒よろしくお願い申し上げます。

診療放射線技師長：鈴木 勝敬



令和2年4月より国立病院機構千葉東病院より診療放射線技師長として着任いたしました鈴木勝敬と申します。今まで千葉県、東京都に勤務経験はありますが埼玉県は初めてであり、早くこの環境・業務に慣れたいと思っています。現在、当院の放射線科は6人の診療放射線技師でX線撮影・骨密度測定・CT・MRI・透視撮影・RI（核医学）の撮影業務を行っています。今、新型コロナウイルス感染症の対応で各所はとて大変だとは思いますが、放射線科はその一助として診断能の高い画像の提供を目指すとともにチーム医療の充実を図り、東埼玉病院ならびに地域の皆様に貢献できるよう努力していきたいと考えておりますのでよろしくお願い致します。

副看護部長：高山 早苗



4月1日付で霞ヶ浦医療センターより参りました高山早苗と申します。どうぞよろしくお願いいたします。東埼玉病院の敷地は緑が豊かで、いろいろな種類の花も咲いており、季節を感じられるとてもよい環境にある病院です。当院は神経難病や筋ジストロフィー、重症心身障害児（者）など国立病院機構として当院にしかできない医療を提供しています。看護部の理念にある「あたたかい看護」を提供できるように、看護職員と共に取り組んでいきたいと思っております。

4月に東京医療センターより移動してきました佐藤征子と申します。よろしくお願いいたします。2階病棟は筋ジストロフィーの患者さんが入院されている病棟です。私は、今回、初めて、筋ジストロフィーの患者さんや医療と療養介護サービスを提供している病棟を担当することになりました。長期入院している患者さんのための療養介護サービスの提供をするために、多くの職種のスタッフがチームとして関り、一人一人の患者さんがその人らしく過ごせるようにサポートしています。その中で、管理者として、看護師や療養介助員などの病棟スタッフとともに、きめ細やかなサポートができるように頑張りたいと思います。よろしくお願いいたします。



訪問看護ステーション 管理者（看護師長）：武井 紀子



4月1日付で宇都宮病院から配置換えとなりました、武井紀子です。再び東埼玉病院で働けることを、大変うれしく思っています。訪問看護という初めての環境ですが、こちらの病院で学んだ神経難病、重心病棟で培った看護を訪問看護でも実践、指導できるように頑張ります。

新人看護師 オリエンテーション

令和2年度、看護部は31名の新人看護職員を迎えました。

今年は、新型コロナウイルス感染拡大防止を踏まえた異例のスタートとなり、全体のオリエンテーションの縮小はありましたが、ソーシャルディスタンスを確保した対応でオリエンテーションや演習を実施できたことで、新採用者同士の「仲間づくり」の場ができて良かったと思います。

このような世情や専門職業人となる不安がある中でも、2日間の看護技術演習では、期待と希望に満ち溢れた表情と真剣な眼差しで、現場の先輩看護師の説明を聞き、演習に臨んでいました。

これから、嬉しいことも、辛いことも、一緒に入職した仲間と励ましあい、患者さんに信頼される看護師になれるよう、笑顔を忘れず日々頑張っていきましょう。私たちも、皆さんを支えながら、共に成長していきたいと思えます。

(教育担当 看護師長：保坂 美和)



地域医療連携室

お知らせ

地域医療連携室では、現在、4名のスタッフにて業務を行っています。本来なら、当院の紹介及びご挨拶のため、他医療機関への訪問が必要と考えていますが、COVID-19の蔓延のため、ご遠慮させていただいています。

地域連携室では、

- ①他医療機関からの患者受け入れ・当院から他医療機関への転院、外来受診の調整
- ②診療情報提供に関する調整
- ③画像診断共同利用（MRI検査、CT検査、骨密度検査、RI検査）の調整
- ④退院調整看護師による、退院調整業務
- ⑤市民公開講座の企画・運営や医療機関への訪問などの広報活動
- ⑥年2回のリウマチ研修会の企画・運営等を行っています。

迅速に、ていねいな対応を心がけていますので、今後ともよろしくお願いたします。

（室長：賀嶋 俊隆）



一担当スタッフ

室長（外科医長）	賀嶋 俊隆
地域医療連携係長	金子 ひろみ
医療社会事業専門職	木村 亨
医療社会事業専門員	須藤 歩美

画像診断共同利用CT・MRI・シンチ検査のご案内

検査結果は翌日（土日祝の前日の場合は翌開院日）、画像（CD-R）と診断レポートを発送します。お急ぎの場合は、翌日（土日祝の前日の場合は翌開院日）、診断レポートをFAXにてご連絡いたします。

また、一般的なトンネル型MRIは閉塞感があるため、閉所恐怖症の人や高齢者が苦手とするケースが少なくありません。当院では、周囲に隔てるものがなく窮屈感や圧迫感が軽減され、軽度の閉所恐怖症の人でも検査可能なオープン型MRI（0.3テスラ）を採用しています。

受託実績	
平成30年度	355件
令和1年度	483件
令和2年度	82件（4～6月）

たくさんのご紹介ありがとうございます。



地域医療連携室（医療機関からの問い合わせ窓口）

電話 048-769-1970

FAX 048-769-1971

※ご利用時間 月～金（祝日は除く）8:30～17:15